

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高志野ベース ライト (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0人	(回答者数) 0人
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの活動などのスペースが十分に確保されている。	・2階スペースや静養室が使用できる。 ・遊びの内容に合わせて空間を仕切ることができる。	・状況に合わせて活動場所を区切りながら、安全に配慮して過ごしていく。
2	・子どもが過ごしやすく、自己選択できる環境設定になっている。	・玩具の種類を豊富に用意しており、子ども自身が遊ぶ玩具を選び、使用しやすい環境に整えている。 ・自分の遊んだ玩具を片付ける療育を目指すことができる。	・玩具の整理整頓を子どもたち自身が意識できるように声かけを行っていく。
3	・子どもにわかりやすく構造化された環境になっている。	・トイレが男子専用と洋式の2室が設置されており、状況に合わせて使い分けすることができる。	・トイレに混雑ができないように環境設定を行っていく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもたちの活動に制限がある。	・「走る」「跳ぶ」などの身体を大きく動かす運動ができない。	・ストレッチをする時間を設けるなど、身体を整える活動を行い、子どもたちにストレスがかからないように提供していく。
2	・トイレ周辺に死角がある。	・洋式トイレ前が廊下側になっているため、死角となり常に注意が必要である。	・廊下(死角)で遊ぶことを禁止区域として、絵カードなどでわかりやすく表示し、死角に入らないように見守りを強化する。
3	・適切な職員の配置	・2階スペースや静養室などに子どもたちが分散すると、スタッフの配置がそれぞれに必要なため、連携が取りにくい時がある。	・事前に打ち合わせを行い役割を決めておく。 ・想定外の事態が起きたときは、早急に管理者に報告し対応する。